

子どもの本だな 124

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

おおきくなりすぎたくま

リンド・ワード 文・画 渡辺 茂男 訳 (ほるぷ出版)

ジョニーの住む村の家々にはたいいていくマの毛皮がほしてありますが、ジョニーの家にはありません。ジョニーは一番大きな毛皮を手に入れようと森にでかけました。ところが、見つけたのは子グマでした。子グマは何でも食べました。子牛たちの牛乳や鶏のエサ、リンゴ畑のリンゴやパンケーキまで。子グマはみるみる大きくなり、食料部屋の食料を食べつくし、近所の家の作物を食い荒らしました。近所の人たちにさんざん文句を言われたジョニーは、森にクマをかえそうとしますが、どんなに遠くに置いてきてもクマは戻ってきます。ついにジョニーは銃を持ってクマと森に向かいました。

セピア色の絵は素朴で力強く、細部まで丁寧に描かれ、登場人物の心の動きやクマの様子が生き生きと伝わってきます。どこか憎めないクマをめぐる人々の暮らしに開拓時代の空気を感じます。読んでもらえば5歳くらいから。

(西村)

西遊記 (上・下)

呉承恩 作 君島 久子 訳 瀬川 康夫 画 (福音館書店)

大昔の中国、花果山の頂にある石から生まれた孫悟空は、天を騒がせた罪でお釈迦様に大岩の下に閉じこめられてしまいます。それから500年後、三蔵法師に助けられた悟空はその弟子となり、同じく弟子となった猪八戒、沙悟浄とともにありがたい経典を手に入れるため、天竺を目指します。長い道のりを行く悟空たちには、様々な困難が待ち受けます。平頂山では、三蔵を食べようとした金角、銀角によって仲間3人が捕まえられてしまいます。悟空が戦いを挑みますが、呼びかけられて「おう」と返事をすると、葫蘆(ひょうたん)の中に閉じこめられて絶体絶命。それでも知恵を働かせてぬけ出した悟空は、戦いの末に金角、銀角を葫蘆の中に閉じこめ、仲間3人を助けました。

叱られたり一度は破門されつつも三蔵を守る悟空、どこか憎めない愛嬌のある八戒、生真面目で一途に仲間を支える悟浄…登場人物がそれぞれ魅力的に描かれています。筋斗雲に乗り如意棒片手に戦う悟空の姿は勇ましく、躍動感があり物語に引き込まれます。細かく凝った挿絵が物語をいっそう引き立てます。高学年ぐらいから大人まで楽しんで読めます。(八木)

3月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

4月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				



- ▶ ×印は休館日
(3/21 は祝日の振替)
- ※閉館時は返却ポスト
をご利用ください。
- ▶開館時間
10:00~18:00
※金曜日のみ
10:00~20:00

『 世界中で言葉のかけらを 日本語教師の旅と記憶 』 山本 冴里 著

筑摩書房 238頁 2023年10月刊 1,700円 (請求記号)804

本書は、日本語教師である著者が、日本や海外での体験、人々との出会いを通して、聞いたこと、感じたこと、言葉からみえてきた世界を綴った旅と記憶の書である。

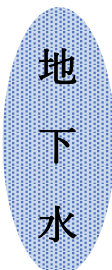
母語ではない他国の言葉を学ぶ目的は人によって様々だ。ある日本語教師のもとに、亡くなった妻の言葉を理解したいという男性が訪ねてくる。男性の妻は、結婚により日本を離れて生活することになった。年を重ね、寝たきりになった妻が目を開けて最後に発した言葉は「日本語だったはず」と男性は確信する。妻がなんといったのかわからない、でも、日本語を学び続けるうち、いつかあの音の連なりに巡り合える、もう一度妻に会える日を楽しみにする気持ちでいる、と男性は語った。このエピソードの他にも、親の再婚をきっかけに日本に来たが、言葉がわからず苦勞する女の子の話、社会的背景により制限のあるなか、他国の言葉を学んだ人の話など、言葉を通して見てきたことが綴られている。

人には、幼いころから慣れ親しんだ言語があり、それは生まれ育った国によって違う。いくつものエピソードを通して、あらゆる言葉に敬意を払いたい、また払ってほしいという著者の熱い想いが伝わってくる。言葉を交わすことは、単に意思伝達の手段だけではない。著者が惹きつけられたのは、心が触れ合い、想いが伝わる喜びや、言葉を交わすことによって生まれる信頼なのではないかと感じた。

また本書は、旅行記としても楽しめ、世界を旅したような気分になる。世界には様々な環境で生活している人がいるのだと視野を広げることができた。(福永)

3月	4月	3・4月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
7日	11日			福地(三反長) 地域内 14:30~ 14:50	米田 公会堂 15:00~ 15:20	竹広南 公民館 15:30~ 15:50
14日	18日			原池団地 公民館 15:00~ 15:20	山田 掲示板前 15:30~ 15:50	原 太田東地区 農村交流 センター 16:00~16:20
28日	25日	広坂 公民館 10:30~ 10:50	上太田 公民館 11:00~ 11:20	塚森 地域内 15:00~ 15:20	太子 ニュータウン 公民館 15:30~ 15:50	吉福 公民館 16:00~ 16:20

< お知らせ >
毎週土曜日に
「おはなしの時間」
を開いています。
↓ 4歳~小学2年生
11:00~11:30
↓ 小学3年生~中学3年生
11:30~12:00
3月のおはなしは、「梅の木村のおならじいさん」「鳥のみじい」「ついでにペロリ」「犬になった王子」などを予定しています。詳しくは、館内掲示または図書館HPをご覧ください。



2月18日に、図書館開館40周年の記念講演会「子どもの一生を支える絵本」絵本づくりの現場から」を開催した。絵本作家の小風さちさんと児童書編集者の関根里江さん、おふたりの対談だった。

どのようにして絵本のことばやストーリーがうまれるのかを話される小風さんの口調は柔らかく、絵本の読み聞かせを聞いていると、こちらの心までほぐれていくようだった。絵が鮮やかで、音もリズムミカルな赤ちゃん絵本から始まり、少しずつ成長していく子どもの、それぞれの時期に合ったことばを選び、イメージにぴったりの絵を合わせる。一冊の絵本が、時間をかけて丁寧に創られていることを、あらためて実感した。

多くの生き物の中で、人間だけがことばを使い、文字を発明して、自分たちの経験や知恵を本という形にして伝えてきた。絵本は、子どもが初めて出会う文学作品である。将来、自分のことばで考え、ことばで気持ちを伝え、お互いをわかりあうためにも、人生の最初に出会う文学作品が、文章も絵も美しいものであってほしいと思う。

これからも、子どもたちが図書館で色々な本を手に取り、自分のお気に入りの本に出会ってほしいと願っている。
(池田)